

## 1. 授業の到達目標およびテーマ

人類は技術（石器）とともに誕生したと言われる。途方もない長い時間をかけて今日、技術は巨大な体系に発達した。技術の発展は、人間の関係や社会生活を変えてきた。今後、私たちは技術とどのように関わっていかねばならないのか。技術史のめざすところは、今を生きる私たちの今日の到達点を位置づけ、未来を拓く意欲と豊かな発想を呼び起こすことだ。技術とは何か、芸術とは何か。歴史的視点から技術と芸術の本質を考察する。

## 2. 授業の概要

昔、技術と芸術は、ひとつの概念であった。明治時代には技芸と呼ばれたこともあったが、その概念の意味を歴史過程を通して学ぶ。

この講義では、人類の歴史は、技術（道具や機械など）の歴史である、という視座から、人類の誕生とともにあった道具の時代から、産業革命期の機械の時代まで、技術の歴史について概観する。

## 3. 授業内容と計画

- (1) 技術と芸術 – 概念の誕生 –
- (2) 文字の歴史① – 四大文明の文字、アルファベット・漢字の起源 –
- (3) 文字の歴史② – 文字と筆記具 パピルス・タブレット・紙 –
- (4) 算の歴史 – ローマ数字・アラビア数字・零の発見 –
- (5) 人類の誕生と技術 – 二足歩行と手の道具 –
- (6) 道具の発達① – 石器の進化 –
- (7) 道具の発達② – 火の利用・発火の技術 –
- (8) 道具の発達③ – 人間は何を食べてきたか –
- (9) 道具の発達④ – 青銅器、鉄器の時代 –
- (10) 動力の発達（1） – 人力・畜力・水力の技術 –
- (11) 動力の発達（2） – 風車、水車の時代 –
- (12) 古代の土木技術 – 水道橋にみるローマ帝国の技術 –
- (13) 中世の産業技術 – 技術書が語る機械技術、鉱山技術 –
- (14) 産業革命期の技術 – 紡績・織布技術、製鉄製鋼技術の発達 –
- (15) 講義のまとめ – 歴史と展望 –

## 4. 成績評価の方法と基準

成績評価はレポートにて行う。レポート課題については講義の中で提示する。評価は、講義内容および課題の要点をいかに的確に捉えているか、また論旨がよくまとめられ、適切なレポート文になっているかどうかを基準にして行う。

## 5. 参考文献 『三遠南信産業遺産』 著者：石田正治、出版社：春夏秋冬叢書